

授業概要

本講義では、さまざまな現代ポップカルチャーの概要を知るとともに、その成り立ちや、社会／メディア技術との関係を学ぶ。

なお、この講義ではファッション、アニメ、ネット動画、音楽など、身近に接している可能性の高い事例を中心に上げたいと考えているが、ときに（おそらく）馴染みの薄いであろう話題にも飛ぶことがある。「すでに興味のある物事と関連する話題」に加え、それを媒介として未知の領域にも接してもらいたい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：授業の進め方、成績についてなど
第 2 回	ポップカルチャーとは何か？
第 3 回	アニメと声優・音楽・効果音
第 4 回	YouTuber／VTuber——インターネット時代の有名人
第 5 回	マンガ／アニメとメディアミックス
第 6 回	コスプレと消費社会
第 7 回	ファッションとジェンダー
第 8 回	ライトノベルの読書論
第 9 回	写真文化のなかのプリクラ
第 10 回	ロック・ミュージックとカウンターカルチャー
第 11 回	ポップ／アートと資本主義
第 12 回	スーパーヒーローと現代社会の諸問題：マーベル作品から考える
第 13 回	ポップカルチャーとステレオタイプ
第 14 回	コンテンツ・ツーリズムと地域振興：埼玉の事例から考える
第 15 回	ポップカルチャーと文化政策——ヒップホップとクールジャパン
第 16 回	期末試験

到達目標

ポップカルチャー、そしてそれを担う人びとについての理解を深め、自らの意見を持つことができる。身近な物事を読み解き、社会との関係について考えをめぐらせることができる。

履修上の注意

映像や音響の資料を多く使用する予定である。

講義時にコメントシートを配布し、授業の感想や自らの考え、疑問点等を書く時間を設ける（コメントも評価対象に含める）。

受講生の関心等により、授業回の順序を変更する場合がある。

予習・復習

アニメを見るとき、音楽を聴くとき、映画を見るときなど、その事象をよく観察し、考えたこと、感じたことをまとめておくこと。

講義中はノートを取り、キーワードなどを復習すること。

評価方法

筆記試験（60%）

コメントシートおよび授業への参加姿勢（40%）

テキスト

テキストは特に指定しない。

必要に応じて、講義中にプリント配布やスライド投影を行う。

参考書はその都度紹介する。